

【第3分科会(青年)】 ついでになる仕掛けで社会課題を解決するワークショップ ～視座を変える思考プロセスのつくりかた～

広島県 化学/総合技術監理部門

小島洋治

化学/繊維/金属部会



1. はじめに

この度、第49回技術士全国大会にて第3分科会に参加した。中部本部の青年技術士交流会では「仕掛学」という人の行動を変える仕掛けを対象にした新しい学問分野に取り組んでおり、今回はこれを学ぶとともに、ワークショップで仕掛けづくりを体験した。

2. 仕掛学について

(1)「仕掛学」とは

「仕掛学」とは、大阪大学の松村教授が考案した、仕掛による「ついでになる行動」で結果的に社会の問題を解決することを狙った、自覚的な行動変容を促す仕組みづくりを考える学問である。

仕掛けは、人々を「そそる」特徴を有し、これが行動変容を促す他の仕組み、規制「させる」、ナッジ「つつく」との相違である。

図-1の様に、ごみ箱の上にバスケットゴールを取り付けると、ついゴールにゴミを投げ入れようとして、結果的にごみの収集、分別を促進する。

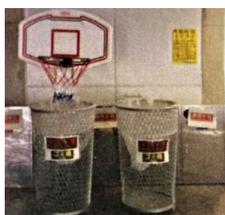


図-1.仕掛けの例

(2)仕掛けの要件

仕掛けには、次の3要件が求められる。

- ① 公平性：誰も不利益を被らないこと
- ② 誘引性：行動が誘われること
- ③ 目的の二重性：仕掛側と被仕掛側で目的が異なること

良い仕掛けには、遊び心と納得性があり、

人々に「すばらしい」「またしたい」という気持ちを持たせる。

3. 内容

分科会は、講義とワークショップの2部構成であり、最後に発表とまとめを行った。

(1) 講義

講師としてBIPROGY(株)の齊藤哲哉氏を迎え、前記の内容について学んだ。

(2)ワークショップ

「暑くても」つい外出したくなる仕掛け」の題目にて、仕掛けの発想部分を体験した。

まず、個人ワークにて強制発想法を用いて仕掛けの候補を考え、4~5名のグループ毎に素案を選定し、協働して内容を練り上げた。

我々のグループでは「キャラが隠れているストリート」の仕掛けで、商店街などの振興策としてVRなどで路上にキャラクターを出現させ、得点により景品を用意するアイデアを考えた。

参加者互選の結果は、「変身シートベルト」が最も多くの賛同を得た。車のシートベルトにヒーローなどに変身できる仕掛けを組み込むことで、子供が楽しく外出できる仕掛けである。その他、各グループの仕掛けから多様な発想が楽しめた。

4. まとめ

「仕掛け」という、ちょっと視座を変えた社会課題解決方法に触れて、課題解決や合意形成に多様な視点を持つことの有意義さを実感したので、今後の自身の行動に活かしたい。